



会長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男 (農昭41卒)

峰ヶ丘同窓会々員の皆様方におかれましては、益々ご清栄のうちにご活躍のことと思います。

私は、先に開催された平成30年度理事会において峰ヶ丘同窓会の会長に推挙され、その職を謹んでお引き受けすることにいたしました。

秋田県横手市の在郷で育った私は、昭和37年(1962)に農学科に入学し、古ぼけた姿川寮で学生生活を始めました。自室の隅からは竹が生えてくるほどでした。卒業期の就職戦線に敗れ、その年度末を迎えたころ、大学院農学研究科(修士課程)が新設されることになり、早速に入院しました。

院生生活はアツという間に終わり、再び就活に努めましたが、ほぼ惨敗でした。昭和41年の2月になった頃、斎藤清教授から畜産学講座で助手の採用を予定していると告げられ、「これだ」と思いました。かくして、昭和43年(1968)の6月1日付で文部教官「助手」に採用され、私の教員生活が始まりました。研究・教育・社会貢献の業績が僅少でしたが昭和52年に助教授に、平成2年には教授に昇任することができました。この間、金子幸雄名誉教授と房相佑教授と共同・協力しながら業務にあたり、平成20年(2008)

に停年退職をむかえることができました。

停年になってからは、ほぼ毎日、宇大のコートをお借りして、OB、OGの皆さんと早朝テニスを楽しんで(苦しんで)います。6年間の学生生活、40年間の教員生活の後、私の峰ヶ丘参りは、まだまだ続くことになったのです。

峰ヶ丘同窓会は、高等農林時代の昭和3年に結成され、「会員相互の親睦」と「母校発展への寄与」を目的にかかげて事業等を展開してきました。「峰ヶ丘会報」はすでに第155号にまで及び、また「会員名簿」は4年ごとに刊行されて平成29年版が発行されています。

宇都宮高等農林学校が創立されてから既に95年が経過しました。この間、峰ヶ丘同窓会は、農学部と共催して50、70および90周年記念式典と事業等を、それぞれ昭和47年、平成4年および平成24年に行いました。「農学部50年史」が編纂されて以降、大学・農学部は大きな変革期をむかえました。この間の変遷を取りまとめるために同窓会は編集委員会(津谷好人名誉教授委員長)を設け、平成29年6月に「農学部創立90周年記念史」を刊行しました。その編集後記に津谷編集委員長は、「90周年記念史は、100周年記念史に向けた記録」と明記されています。峰ヶ丘同窓会が目指すべき当面の課題をご教示していただいたものと思っています。

山口幸志副会長(畜46卒)をはじめ役員の皆様と共に、母校宇都宮大学農学部の発展と同窓会々員相互の親睦と交流をめざして努力して参りますので、同窓会々員各位のご支援とご協力を切にお願いします。



副会長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会副会長

山口 幸志 (畜昭46卒)

この度副会長に選任されました。自己紹介と同窓会に対する考えをご披露し、挨拶とさせていただきます。

わたしは、団塊の世代のど真ん中昭和23年、宇都宮市の東部日清原村に農家の跡取りとして生まれました。昭和39年卒業時の清原中の高校進学率は5割に満たない水準でした。

そんな中で大学に入学できたのは、楽に通学できる距離に、費用のかからない国立大が、農学部をメインに存在したことでした。同じようなことを言う人は県庁の先輩方には少なくありません。ちなみに昭和46年卒業当時の大学短大の卒業者の割合は概ね25パーセントと記憶しています。

昭和46年から米の生産調整が始まることから、ある種の農業に対する不安感もあって県庁に就職し、兼業農家になりました。

当時の大学は、それまでの高校と違って、勉強をしないでかっこいいことを適当に言い合っている感じでしたが、今になって考えてみれば、あの経験の有り無しが高卒と大

学卒の違いかなと思うことが多くあります。

県庁に畜産職として就職し、平成10年の那須の大水害時に那珂川から太平洋まで流された牛の処理、同15年栃木県でBSE(いわゆる狂牛病)が発生した時の対応、16年の5年毎に皇族を招いて開催される第12回全日本ホルスタイン共進会の開催等、栃木県政史に残るような事件に大きく関与することができました。

母校からは専門職としての知識を得ただけではなく、行政を進める中で関係者の中での同窓生の協力等、様々な面でお世話になったと思っています。

県庁をやめるころに、大型農家へ施策を集中させようとする品目横断的経営安定対策という政策が出て来たことから、経済学部に行った長男には農地を誰かに貸し出し、財産管理をすればいいと思っていたところ、宇大の農学部に行った三男が農業をやると言い出しました。

今農業を本格的に始めれば、孫子の代まで農家でいられると思い、我が家の将来を三男に委ねることにしました。彼はアルバイトで知り合った農学部の後輩と結婚し、農作業の人手が必要な時は宇大生をアルバイトで雇う等、母校と濃密な関係を続けています。

このように親子二代にわたって学べた宇大の同窓会副会長になるのも何かの縁と、同窓会の副会長の役割やできることを学び、模索しながら同窓生の活躍や同窓会の発展のために微力ながら尽くしていきたいと考えております。